

飯南

い
い
な
ん

議会報

- 02 可決された主な議案
- 03 平成25年度 一般会計予算
議会全員協議会の議題
- 04 一般質問に3人が登壇
- 07 討論
採決の結果
視察研修
- 08 常任委員会報告
議会活動報告
陳情
決算審査特別委員会を設置
- 10 明日を拓く

第35号
平成25年10月18日



9月定例会終わる

9月10日から9月24日までの15日間の日程で開きました。

平成25年9月定例会には合併協議からの懸案事項であった、本庁舎の位置を定める議案が提案された。

合併協議会の「新町の事務所の位置選定小委員会」では、庁舎は行政効率化の観点から、職員の定数管理計画との整合性を図りながら本庁舎方式へ移行を図るとしており、9年の時を経て議決に至った。

採決は特別多数議決で記名投票により行われ、賛成8反対2の多数で可決した。場所は飯南町下赤名880番地。

その後、本庁舎の基本設計予算1400万円と頓原基幹支所の予備調査費と意見集約に要する費用として210万円などが追加提案され、全会一致で可決した。

「可決された議案」

■ 条例関係

飯南町災害派遣手当等に関する条例の制定など9件

■ 専決予算

平成25年度飯南町一般会計補正予算(第2号)

■ 補正予算

平成25年度飯南町一般会計補正予算(第3号)など8件

■ その他

新町建設計画の変更など4件

■ 議員発議

道州制導入に断固反対する意見書

「提案された議案」

■ 認定

平成24年度飯南町各会計歳入歳出決算認定

■ 報告

株式会社フロンティアあかぎの経営状況の報告

【平成25年度 一般会計補正予算】

公共土木施設災害復旧費事業費・道路維持修繕・長期債繰上償還など

5億4561万円増額

各会計	補正予算額	予算総額	
一般会計	5億4561万円	74億6106万円	
特別会計	国民健康保険事業	1410万円	7億2683万円
	後期高齢者医療事業	0万円	1億7527万円
	介護保険サービス事業	0万円	3430万円
	簡易水道事業	509万円	3億870万円
	下水道事業	1082万円	4億3409万円
病院事業会計	1496万円	12億5617万円	



議会全員協議会の議題

9月24日

- ① 飯南町大注連縄創作館の状況
- ② 神戸川の潮発電所水利使用に関する調整会議の報告
- ③ 飯南町の外灯のLED化
- ④ 雲南広域連合事務所移転計画
- ⑤ 総合振興計画評価委員会の評価報告
- ⑥ 飯南町農業振興計画



一般質問

9月定例会



熊谷 兼樹 議員

Q障がい者サービス 全員の計画策定を

平成24年4月の障害者自立支援法と児童福祉法の改正により、平成27年3月までに障がい者サービス利用計画の策定が義務付けられている。飯南町の計画策定の状況はどうか。

A 全員の策定に努力

町長 山崎 英樹

平成25年4月に障害者総合支援法が制定され、利用者が希望するところで安心して生活できることをめざしている。平成27年3月までに、利用者全員の障がい者サービス利用計画を策定することになっているが、現在計画策定利用者は61人中9人で、15%と低い。

これは相談支援事業所が町内にないことが要因だが、期限までに全員の計画策定に努めたい。

Q汚染堆肥の処理は

放射性セシウムを含む堆肥を、下米島地内の町有地にJ A雲南が一時保管している。この堆肥が東日本のどこかへ移送すると新聞報道されたが、町はこれを把握していたのか。

この堆肥の受け入れには、地元では大変厳しい意見があったが、J A雲南から強い要請があり、やむを得ず受け入れた経緯がある。町や議会、地元説明があるべきだ。

A 正式報告を待つ

町長 山崎 英樹

事務レベルで県外の最終処分場で処理が可能になったことを口頭で報告があったと聞いている。

J A雲南は、飯南町あるいは議会に対して正式な形で報告が必要と思う。



J A 雲南の汚染堆肥保管施設

Q森林資源を どう活用する

本町面積の87%を占める森林資源の有効活用が今求められている。

- ① 木材価値の高い順に効率的に区分するには集積場(ストックヤード)を確保し需用拡大を図る必要がある。今後町の施設建築に町産材を積極的に利用すべきだ。
- ② 木材生産コストは人件費と設備であるが、削減策をどう考えるか。
- ③ 今後の林業従事者の育成策

A 有効利用を進める

町長 山崎 英樹

- ① 平成24年度に町産木材の利用促進に関する基本方針を定めた。本町産材の有効利用を図り需要拡大に努めるため、仕組みづくりを進めている。
- ② コスト削減は極めて重要であり、団地化の推進など関係者が一体となって進めていく。
- ③ 林業従事者の育成について

をどう考えるか。
④ JIVER及びFSC認証の取得を目指す考えは。

は、本町にある農林大学校林業課で新たな担い手が学んでいるなど、関係機関と協力して育成に努めたい。
④ JIVERとFSC森林認証制度は取得の考えはない。

※JIVER(オフセット・クレジット)とは日本国内でカーボン・オフセット(注)の市場を流通させるために、環境省が認証するクレジットによるその制度
(注)温室効果ガスの排出削減が困難な部分について、他の場所で実現した排出削減、吸収活動等により、その排出量の全部又は一部を埋め合わせること。
※FSC森林管理協議会森林認証制度
森林管理協議会が、森林管理をある基準に照らし合わせ、それを満たしているかどうかを評価・認証していく制度

一般質問

9月定例会



内藤 眞一 議員

Q頓原基幹支所の 建設計画は

町長は町政座談会で、頓原・志々・来島地区に特色ある支所設置の説明をした。頓原地区では基幹支所の建設位置等に疑問を呈する意見が続出した。

理解を得るため、きちんとした計画と、サービスが低下しない約束など、納得できる丁寧な説明が必要だが、町長の考えは。



町が提案している頓原基幹支所候補地

A 丁寧の説明する

町長 山崎 英樹

新庁舎は条例を提案した。基幹支所については、指摘のとおり丁寧に説明し、議論を進めたい。

- ① 保健センターと基幹支所の一体整備。
- ② 老朽化した生涯学習センター 1 建替・跡地の有効利用。
- ③ 病院周辺の駐車場不足解消・プール移転先。
- ④ 現庁舎がなくなる場合の連担地活性化策。
- ⑤ 現在の頓原庁舎業務とそん色ない住民サービスをを行う。

Q大注連縄創作館 建設進捗状況は

おおしめなわ

大注連縄創作館は、全国から注文があり本町の産業として価値があると考えます。

その建設位置、規模および観光・集客・産業等、波及効果も含め、町の支援体制と活用方法について問う。

A 経済的効果を期待し 全面的に支援

町長 山崎 英樹

建設位置は「みせんの横」と「やまなみ周辺」を検討している。やまなみ周辺は民有地があり、用地調査業務を発注し調査中。

規模は企業組合飯南町注連縄クラブと協議し、2階建延べ762平米の予定。

しめ縄や稲わら加工商品の生産・販売、しめ縄体験、文化伝承等の実施により、観光誘客、他産業活性化等の経済波及効果を期待し、全面的に支援したい。

Q再生可能エネルギー 本町の政策は

木質バイオマス燃料によるエネルギー活用は、森林資源が豊富な本町には魅力だ。また、小水力発電は候補地の選定が進んでいると聞く。現在の進行状況はどうか。

A 調査検討中

町長 山崎 英樹

緑の分権改革推進協議会を設け、エネルギー活用を調査研究している。これまで太陽光発電の調査をし、今年度は木質バイオマス・小水力発電の調査・検討中だ。

A 森林組合と協議中

産業振興課長 中祖 勉

木質バイオマス事業は、未利用材でマキ・おが粉製品を町内で活用するよう、森林組合と実施に向け協議中。小水力発電は、昨年度19か所の候補地を選定し、コスト面も考慮して検討している。

一般質問

9月定例会



長島 正一 議員

Q 松江道開通の影響は

① 松江道開通後の経済的影響はどうか。今後、どう推移すると分析しているか。

② 国道54号対策協議会での提案は効果がなかったように見受けられる。問題は何か。

③ 対策として、住民を巻き込んで、地域食材等の資源や施設を活用し集客効果を上げなければならぬ。地元の豚肉をメイン食材にしたらどうか。

④ 伊丹市との交流事業を原点に返って再構築することで交流人口を増やすべきだ。



ぶなの里

A 地道な取り組みで対処

町長 山崎 英樹

① 道の駅、産直市、ガソリンスタンドで20〜30%売り上げが減少、温泉施設は5〜16%増加している。

② 国道54号活性化アクションプランは十分な成果が上がっていない。地道な取り組みが必要だと思っている。

③ 店にはそれぞれ特色があるので大切にしながら、ひとつの食材で色々な料理が食べられることも必要だと思う。豚肉は地域食材として研究してみたい。

④ 伊丹市には防災協定を提案しているが、交流をさらに進めたい。



都市交流センターやまなみ

Q 地域振興のあり方は

平成の大合併は効率的行政サービスの実現を目指したが、住民と行政の関係希薄化が問題視されている。どのような理念と手法により地域振興に取り組みのか。また、集落の職員担当制は機能しているのか。



A 住民の意見をよく聞く

副町長 西村 秀樹

人口減少、高齢化、担い手不足、集落機能低下などは喫緊の重要課題だ。対策として、公民館単位で地域運営の仕組みづくり、機能強化を支援するなど、住みよい地域創造事業を推進している。

Q 連担地の振興は

国は中心市街地の住居、公共施設、商業施設等の集約化が必要であるとし、発想の転換を促している。

頓原市街地をどう再構築するのか。

A 地区全体で活性化

副町長 西村 秀樹

中心市街地と周辺部を分けて、互いをどう補完し合うかという視点で、頓原地区全体の維持活性化と関連付けて検討すべきと考えている。

中山間地域研究センターの協力も得ながら検討する。

DEBATE

討論

議案第79号、飯南町の役場の位置を定める条例の一部改正

飯南町の役場を赤名庁舎、頓原庁舎の分庁舎方式を改めて本庁舎方式にし、役場の位置を新たに定める条例改正。

賛成討論 小野 覚 議員

本庁舎方式への移行は、合併協議会で、行政効率の観点から、職員定員管理計画との整合を図りながら、本庁舎方式へ移行を図るとしている。職員は合併時から約25%削減されているが、さらなる行政効率を高めるためにも、本庁舎方式に移行する時期に来ている。

また、新庁舎建設検討委員会の報告と、町内ハランスを考慮して新庁舎は赤名に置くことに賛成する。



全23議案のうち、反対があった議案の採決結果は次のとおりです。
[9月定例会]

件名	結果	議長 難波俊司	小野 覚	伊藤好晴	永井 章	長島正一	門 眞一郎	熊谷兼樹	内藤眞一	早樋徹雄	高橋英次
飯南町の役場の位置を定める条例の一部改正	可決	○	○	●	○	●	○	○	○	○	○

※特別多数議決につき議長も議決に加わりました。

○賛成議員 ●反対議員

視察研修

教育経済常任委員会

委員長 熊谷 兼樹

鳥取県日南町木材団地 西山林業(有)を視察

広大な敷地を有する日南町木材団地 日南町「地域再生計画」に基づき、木材団地(総面積約6万8千5百㎡)を造成し、新たな木材会社が設立されるなど、鳥取県下一の森林面積をいかに活用するかを中心に施策を講じている。

従来の生産体制は、木材市場への出荷が中心で年間4万5千㎡の出荷量が、加工需要の増加により10万㎡に拡大した。本町でも木質バイオマスの活用を検討しているが、事業を円滑に進めるためには、採算性の追求が必要である。事業遂行には、装備の近代化、路網の整備、列状間伐等の導入により伐採搬出作業の省力化によるコスト低減、さらに生産現場の団地化・集約化を推進し、素材生産の効率化をはかることが求められる。

おが粉生産 西山林業(有)

木質バイオマス事業の主産物であるおが粉製造機械の生産能力、生産コスト、騒音、粉塵等の状況について視察した。

おが粉の用途はきのこ栽培用菌床が主であるため、原材料はナラ材が主体である。スギ材に比較して騒音は大きいのが、問題のないレベルであった。粉塵は、おが粉自体が閉鎖されたストックスペースに投入されるため支障のない状況である。

原材料の屋外ストック場における樹皮等の飛散を考察すれば、商業施設が隣接する場所への設置は不適切であると感じた。



おが粉生産プラント



完成間近の交流物産館

教育経済 常任委員会

委員長 熊谷 兼樹

飯南町交流物産館設置条例

本年10月末、三次市にオープンを予定している農産物等の直売所の管理委託をするための条例。

本年は初年度でもあり、県の補助事業等を有効に取り込み経営支援を行っているが、今後は経費の圧縮が求められる。

商品の輸送は、他の産直市場への輸送条件(集荷場の数など)を考慮し、公平性を保ち生産者が困惑しないよう対応を求めた。(今まで交流物産館はアンテナショップとして議論してきた)

平成25年度 一般会計補正予算

園芸振興対策事業 517万円

317万円は、飯南町交流物産館の開設にあたり、県の中山間地域生活サポート事業補助金150万円を受け支援する。6月議会での交流物産館に対する審査意見をふまえ、経営戦略を持って推進することを求める意見があり、今後、生産者への説明会等を通じ、きちんと対応するとの回答があった。

200万円は、ぶなの里の販売促進を、県の緊急雇用創出事業を活用して行う。

町内産品販路等拡大支援事業 1025万円

県の緊急雇用創出事業補助金により商品開発・販売促進をすすめるための人件費5名分と新商品開発経費である。

県の緊急雇用創出事業補助金を活用した事業は、その趣旨の周知徹底を事業所に対して行うよう求めた。

琴引スキー場外臨時管理費 243万円

今年度琴引スキー場に初めて誘致するハンディキャップスキー全国親善大会のため、トイレの改修整備を行うもので、これまで整備されていなかったことに疑問があり、他の施設も調査し、計画的な整備を求めた。

公共土木施設災害復旧 2億1101万円

55箇所分の現年補助。このほかに、農地災害復旧事業、農業施設災害復旧事業合わせて33箇所、4362万円の現年補助がある。

総額で2億5千万円を超える災害復旧費であり、秋の農作業が終わり次第早急な事業実施に努め、来年の農作業に支障が出ないように求めた。

9月に入ってから被害について、早急に調査し早期に復旧するよう努力を求め、対応に努めるとの回答があった。

議会活動報告 [7月～9月]

- 7月2日 議会広報編集委員会:紙面校正
- 8月1日 臨時議会
- 6日 議会広報編集委員会:号外編集作業
- 20日 雲南市・飯南町事務組協議会臨時会
- 23日 島根県町村議会議長会 正副議長・正副委員長研修会(松江市)
- 26日 島根県町村議会議長会 議会広報研修会(松江市)
- 28日 教育経済常任委員会
- 30日 議員懇談会

- 9月2日 教育経済常任委員会視察研修(鳥取県日南町・岡山県赤磐郡赤坂町)
- 6日 議会運営委員会:9月定例会の提出議案、日程外の協議
- 10日 9月定例議会:本会議、町長行政報告、提出議案の説明、質疑
- 13日 :本会議、一般質問
- 17日 :委員会審査
- 18日 :委員会審査
- 19日 :委員会審査
- 20日 :委員会審査
- 24日 9月定例議会:本会議、討論、採決・全員協議会
- 30日～10月1日 議会広報研修会(東京都)



来島診療所

総務厚生 常任委員会

委員長 小野 寛

平成25年度 飯南病院事業会計補正予算

病院の状況について次の意見があった。
最近、患者から接遇などに対する苦情を聞くことがある。

地域の重要な医療施設なので、より良い病院としての確立と経営改善に全職員が努力するよう求めた。



飯南病院

来島高齢者冬期宿泊センター 設置管理に関する条例

来島診療所旧病室を改修し、冬期の在宅生活が困難な高齢者に対し、日常生活を支援し住み慣れた地域で生活を継続できるよう、冬期宿泊センターを開設する。

飯南町社会福祉協議会を指定管理者として運営する。(利用料は1万円～6万円)

平成25年度 一般会計補正予算

緊急雇用創出事業補助金 1225万円

今まで特定のところしか活用していない事業。雇用の面で困っているのは特に福祉部門であり、雇用機会の創出と働き手確保のため保健福祉課と企画財政課の連携を質した。

保健福祉課から要望はないが、あれば応えるとの回答を得た。

角井簡易郵便局事務受託業務(支出の科目変更)

今までの再委託では、日本郵便株式会社から契約違反の指摘があったことから、飯南町との直接雇用形態に変更した。

角井簡易郵便局の存続に努力を強く求めた。

決算審査特別委員会を設置

平成24年度飯南町各会計の歳入歳出決算を審査するため、決算審査特別委員会を設置しました。

委員長 長島 正一	副委員長 熊谷 兼樹
委員 永井 章	委員 内藤 眞一
委員 早樋 徹雄	委員 高橋 英次

陳情

町道花の谷線の拡幅工事を求める陳情
[陳情者]飯南町塩谷37-2
塩谷上自治会長 砂田 和昭 外7名
[審査委員会]教育経済常任委員会
[審査結果]採択

公共事業予算の大幅な確保を求める要望
[陳情者]飯南町下赤名877番地1
飯南町建設業協会 会長 正木 喜代隆
[審査委員会]教育経済常任委員会
[審査結果]趣旨採択

明日を拓く



「理解してもらえてうれしい。」

地元飯南町にアトリエを構え、創作活動に没頭するかたわら、頓原中学校でスクールサポーターとして働く、青木繁のようなたッチで人間の内面をキャンパスに描く個性派。

地元へアトリエを構えたわけは

八嶋 画風がどちらかというのと重いほうなので、家族とのふれあいの中で温かみのある作品の制作をしてみたいと思います。

ました。

家族は私にとってすごく大切で大きな存在なので、実家で生活することで今までの自分から、もう一歩前に進めるのではないかと思っています。

絵のほかに

今打ち込んでるジャンルは

八嶋 自分のいる空間を自分にとって居心地のいい空間にしたいと思って、今住んでいる空間やアトリエをデザインしています。

このことでモチベーションが高まり創作意欲が湧いてきます。

これからの目標は

八嶋 もともと絵が大好きで、自分を知るとか好きになるために絵を描き続けたいと思っています。

雰囲気のある人間になりたいと考えていたり、自分に自信のある人は何かきらきらしたものを持つていると思います。そういうきらきらしているものを身に着けるために、今は絵を描いています。

現在は、スクールサポーターの

仕事をさせていたただいていますが、子供たちとのふれあいの中で、こういう仕事が私に合っていることを気づかせてもらって感謝しています。

また、このアトリエは40畳くらいありますが、ほんとうに安く貸してもらえて、私の活動を理解してもらっていることに、とても感謝をしています。



「温かみのある作品を制作したい。」

プロフィール
1985年 飯南町上赤名に生まれる。
2004年 飯南高校卒業、
2008年 京都嵯峨美術大学油絵専攻卒業、
2013年 広島市立大学大学院芸術学研究科卒業、
現在、飯南町野萱で制作活動に没頭中。

今月の表紙写真



9月初頭の日曜日、頓原中学校と赤来中学校では体育大会が雨天の中で開催され、高原の町飯南町には若人の歓声が響きわたりました。写真の赤来中学校は全学年で80人の生徒、男子生徒による元気な騎馬戦も全学年で取り組みます。追う者、追われる者も一生懸命なのに、どうにも楽しそうに駆け回っていたのが印象的でした。子どもは地域の宝だといいますが、宝を家庭や地域・学校で磨いてあげて輝かせるのも大切なことです。

編集後記

選挙が行われ、議会広報委員会も新たな委員構成でスタートしました。

目標は今ままでどおりわかりやすい紙面、臨場感のある内容で、読者が読みたくなる議会広報誌を目指します。

本定例会は3人が一般質問に登壇し、産業振興、地域振興に関し町長に質しました。

特に、木質バイオマスは本町の今後にと多大な影響を与えると考えられ、2人が質問しましたが、町民の利益につながる事業実施に向け、議員も研鑽を深めるため研修を行います。

さらに開かれた議会を達成するため、独自ホームページ開設の検討をはじめ、始める時期が来ています。読者の皆さんのご意見をお寄せください。

議会広報編集委員会 門 眞一郎